

心を騒がせてはならない

ヨハネの福音書 14章 1-7節

はじめに

今日は、召天者記念礼拝です。私たちの教会から天に召されて行った教会員の方々を偲びつつ、主なる神様を礼拝します。

昨年、召天者記念礼拝から今日までの間に、二名の教会員の方々が天に召されて行きました。矢澤昭一兄と玉山ヨシ子姉です。

矢澤昭一兄は、2002年に奥様の勝美姉と共に、この教会で洗礼を受けられました。晩年は教会から離れていましたが、昨年の夏に奥様の勝美姉を天に送り、ご自身も今年の初めに召されていきました。

玉山ヨシ子姉は、今年の3月に病床で洗礼を受け、8月に天に召されました。95歳という長寿を全うされ、晩年の約半年間をクリスチャンとして過ごしました。

その他にも、教会員ではなくても、今年、皆さんの家族や知人の中で天に召されて行った方々もおられると思います。召天者記念礼拝は、先に天に召された方々を偲び、私たちが天の御国の希望を新たに覚える時です。先に亡くなられた方々はどこに行ったのか、私たちはやがてどこに行くのか、そして私たちは残された命をどのように生きるべきかを、改めて考える時です。

1. 心を騒がせてはならない

イエス様は弟子たちに、「**あなたがたは心を騒がせてはなりません**」と言われました。「心を騒がす」という言葉は、聖書の他の箇所でも「動揺する」「おびえる」「取り乱す」と訳される言葉です。イエス様がこの言葉を語られたのは、最後の晩餐の時でした。つまり、イエス様が十字架で死なれる前夜でした。

イエス様は弟子たちに、「**わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません**」(ヨハネ 13:33)と言われました。最後の晩餐の時、弟子たちはイエス様がもう間もなく、自分たちのもとから去ってしまうと知って動揺したのです。イエス様が自分の目の前からいなくなる、そのことに動揺したのです。

私たちも、愛する家族や親しい知人が自分のもとから去り、目の前からいなくなるという危機感を感じる時、動揺します。人の死は、私たちに別れをもたらす、私たちに動揺させます。また私たち自身に、死の危険が襲いかかる時も、私たちは動揺します。人の死は、私たち人間にとって最大の試練であり、私たちの心を激しく動揺させるものです。

2. 父の家に場所を用意するイエス

人の死が、私たちが動揺させる原因の一つに、私たちが死んだ後にどこに行くのか分からないということがあるのではないのでしょうか。自分や愛する家族や親しい知人は、死んだ後どうなるのか、存在がなくなってしまうのか、魂は安らかであるのか、もう一度会えるのかなどがはっきり分からないために、心が動揺するということがあるのかもしれませんが。逆に言えば、もし私たちが死んだ後にどこに行くのか、私たちの魂はどうなるのかははっきり分かっていたら、私たちの心も安心するのではないのでしょうか。

イエス様は、2-3 節でこのように言われます。「**わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです**」。

イエス様は、動揺する弟子たちに向かって、自分がどこに行くのかをはっきりと語っています。そしてやがて戻って来て弟子たちともう一度会い、いつまでも共にいると約束しておられます。

イエス様は、父なる神様の家、つまり父なる神様のみもとに行こうとしておられます。そしてそこで、弟子たちのために場所を用意しに行くと言っておられます。平たく言えば、それは天の御国と言えるでしょう。父なる神様がおられる天の御国には、住む所がたくさんあると言われます。天の御国には、多くの人が住む場所があるのです。

イエス様はなぜ十字架で死なれたのでしょうか。それは、私たちのために天の御国に場所を用意しに行くためです。私たちを、父なる神様のみもとである天の御国に導くためです。

イエス様は、主なる神様を父と呼んでいます。それゆえイエス様は、神の子です。私たち人間は、アダムとエバが神様に背いて以来、罪の性質を持って生まれ、生まれながらにして罪人です。神様の命令に従うよりも、自分の欲望に従って生きています。それゆえ、神様の怒りを買って、天の御国からは程遠い、神様に裁かれなければならない存在でした。

しかしイエス様は、父なる神様から遣わされてこの地上に来られ、十字架でご自分の命を犠牲にされて、私たちの罪を償い、父なる神様のみもとである天の御国への道を開いてくださったのです。

イエス様は十字架で死なれた後、三日目によみがえられて、今は天の御国におられます。そして御自身の霊である聖霊を、私たちの心に遣わされて私たちと共にいてくださいます。今は、聖霊と御言葉を通して私たちに信仰を与え、私たちを天の御国へと迎え入れてくださっています。そればかりではありません。イエス様はやがてもう一度、天の御国からこの地上に来られ、私たちの救いを完成されます。その時私たちは、イエス様と同じように身体がよみがえり、父なる神様のみもとでイエス様と共に、救いの完成を永遠に喜ぶようになるのです。

3. イエスを通して父のみもとに

イエス様は、私たちのために父なる神様のみもとである天の御国への道を開いてくださいました。ではどうしたら私たちは、そこへ行くことができるのでしょうか。イエス様は 6 節でこのように言われます。「**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません**」。父なる神様のみもとである天の御国に行く道は、一つしかありません。それ以外にはないのです。その道を通らなければ、誰ひとり天の御国に行くことはできないのです。その道とは、イエス様です。イエス様という道を通らなければ、誰ひとり天の御国に行くことはできないのです。

なぜイエス様が、父なる神様のみもとに行く唯一の道なのでしょう。イエス様は 7 節でこのように言われます。「**あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父を知ることになりませぬ。今から父を知るのです。いや、すでにあなたがたは父を見たのです**」。イエス様は神の子です。人間の子が人間であるように、神の子であるイエス様も神なのです。イエス様こそ、父なる神様がどのような方であるかを目に見える形で現わされた方です。それゆえ、イエス様を知ることは父なる神様を知ることであり、イエス様を見ることは父なる神様を見ることであり、イエス様を信じることは父なる神様を信じることなのです。

イエス様は言われました。「**心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい**」。私たちは、人の死を前にする時に動揺します。しかしイエス様は、私たちが人の死を前にする時に何が一番大切かを教えています。それは、イエス様を信じることです。イエス様を信じる時、私たちは父なる神様を信じることとなります。その時に私たちは、父なる神様のみもとである天の御国に迎えられます。

おわりに

イエス様を信じる人は誰でも、父なる神様をも信じ、父なる神様との交わりを回復します。そして父なる神様がおられる天の御国へ迎えられます。

イエス様を信じて先に亡くなられた方々の魂は皆、父なる神様とイエス様がおられる天の御国に今あります。そこでは、罪の性質やすべての労苦から完全に解放されています。イエス様と顔と顔を合わせて交わり、平安に包まれています。

愛する家族や親しい知人の死を前にして、また自分の死を前にして、私たちの心が激しく動揺する時、私たちの心に平安を与え、慰めと希望を与える唯一の道は、イエス様を信じ、神様を信じるということです。

愛する家族や親しい知人がイエス様を信じているなら、彼らは必ず天の御国に行くことができると確信することができます。また私たちが生涯の最後までイエス様を信じ続けていくなら、やがて彼らと再会することができるという慰めと希望を持つことができます。

また私たち自身が死を迎える時でも、イエス様を信じているなら、必ず天の御国に行くことができるという平安を持つことができます。聖書は、私たち人間の魂が死んだ後に行く場所は、天の御国か、それとも地獄か、その二つしかないと教えています。そして父なる神様のおられる天の御国に行く唯一の道は、イエス様を信じることだと教えています。

私たちは、この厳粛な事実の前に、残された命をどのように生きるべきでしょうか。一つは、私たちが死を迎える時まで、生涯の最後までイエス様への信仰を守り抜くということです。イエス様への信仰こそ、先に天に召された方々との再会の希望と、私たちの死に対する平安を与えてくれるものだからです。

もう一つは、愛する家族や親しい知人にイエス様を宣べ伝えることです。そして共に天の御国に行く希望と確信を得ることです。イエス様は、「わたしの父の家には住む所がたくさんある」と言われました。まだまだ多くの方が天の御国に入ることができるのです。その希望を抱いて、諦めずに祈り続け、イエス様を宣べ伝えていきましょう。

イエス様は言われました。「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい」。

天におられる私たちの父である主なる神様。

あなたはイエス様をこの地上に遣わし、イエス様の十字架を通して、私たちのために天の御国を開いてくださいました。あなたが遣わされたイエス様を信じることこそ、あなたがおられる天の御国への唯一の道です。それ以外に道はありません。

先にイエス様を信じて召された兄弟姉妹を、あなたのみもとに導いてくださって感謝いたします。私たちも彼らとの再会を待ち望みつつ、イエス様への信仰を生涯の最後まで守り抜くことができるように助け導いてください。また私たちの愛する家族や親しい知人と共に、天の御国に行くことができるために、私たちが諦めずに祈り続け、イエス様を宣べ伝えることができるように力づけてください。

この祈りを、道であり、真理であり、いのちであるイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。